

# 「悪石島小・中学校の悪石島のボゼ（盆踊り）伝承活動の取組」

## 1 学校名

十島村立悪石島小・中学校

## 2 学年・人数

小学生6名（1年1名，2年2名，6年3名）

中学生3名（1年1名，2年1名，3年1名） 計9名

## 3 日時・場所

### (1) 日時

令和3年8月14，16，18，20～23日（旧暦7月7日～16日）

### (2) 場所

悪石島公民館・テラ（墓地）等

- ・ 旧暦7月7日：七夕 夜の盆踊り始め
- ・ 旧暦7月13日：花たて打ち
- ・ 旧暦7月14日：盆踊り（テラ→公民館）
- ・ 旧暦7月15日：盆踊り（公民館→テラ）
- ・ 旧暦7月16日：ボゼ祭 ハッパン大将

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事，伝統工芸品について

### (1) 名称

悪石島のボゼ（あくせきじまのボゼ）

### (2) 由来

ボゼは盆の終わりに現れ盆行事の幕を引くことで，仏を拝む盆行事に熱中した人々を，太陽の輝く日常の力強い新たな生の世界へ引き戻し，転換させ甦らせる役目をもつとされる。ボゼは，体中や持っているマラ棒の先端についた赤土を人々に擦り付ける。ボゼには，盆時期に先祖の霊とともに現世にやってくる悪霊を追い払い幸をもたらす力がある。

### (3) 構成等

旧暦7月16日には，テラに集まり男性（小学生の女子も含む）のみで盆踊りを行い，その後公民館に移動して再び盆踊りが行われる。ここで，島民による口上が述べられ，呼び出しと太鼓の音に導かれ3体のボゼが出現する。ボゼが帰った後，最後の踊り（ニワモドシ）が行われる。盆踊りで行われる踊りは，ところ（場所）・ときを定めて決まった種類の踊りが踊られる。代々口伝のみで伝えられて，受け継がれてきている。また，盆踊り終了後に子どもたちは「ハッパン大将」という踊りを披露する。

## 5 保存会や地域との連携の具体

盆踊りは，踊るところ，ときが定めら，先祖の霊や神・仏に奉納するものとされているので，お盆以外に踊られることはなく，伝承も口伝のみと

なっている。そのため初めて参加する者は、実際の踊りの中に入り、島民が踊っている姿を参考に、見よう見まねで覚えるしかなかった。しかし、現在「盆踊り保存会」が踊りを伝え、学校も協力・連携している。

ボゼの登場する最終日はボゼ特別便により、多くの観光客や取材陣が訪れ、大きな賑わいをみせる。教職員も、島民の一員として積極的に参加し、真剣に取り組んでいる。この時期は夏季休業中であることが多いが、よほどのことがない限り、全職員が帰島し参加をしている。踊りは男性のみであるが、女性は各家庭での御盆行事や食事の準備等で大忙しの中、踊りの合いの手などで参加し、場を盛り上げている。まさに島が一丸となり取り組む姿から、郷土の伝統文化への誇りと熱い思いを知ることができる。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

伝統を引き継いでいこうという思いから、盆踊り保存会が発足している。その取組として、盆踊り期間中に、子どもたちや教職員、Iターン者への講習会が行われている。今までは、見よう見まねで覚えるしかなかった踊りだが、講習会で、唄われる歌詞の意味や踊りの一挙手一投足について細やかな指導がなされている。次の世代へと伝統を引き継ぎ、守っていくうえで、大変有意義であると考えている。子どもたちも楽しく参加し、島の伝統を引き継ぐことの大切さを実感している。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



盆踊り



ボゼ祭



ハッパン大将

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【中学2年 生徒（山海留学生）】

ボゼ祭は、世界文化遺産に登録されたと聞いていたので、是非参加したいと思い、夏休みは、早く悪石島に戻ってきた。ボゼが登場し、その迫力に圧倒された。伝統の重みを感じるととても良い体験となった。

### 【教職員】

ユネスコ無形文化遺産に登録され注目を集めているボゼ祭も、今年は新型コロナウイルス感染防止対策のため島外からの参加者は、ほとんどありませんでした。以前は、多くの人々が来島し、盛り上がりを見せていたと聞きます。一転して、今年は、落ち着いたボゼ祭でした。盆踊りの厳かな雰囲気やボゼの迫力、盛大さはなくても、こうやって日常の中で伝統が守られていることを感じました。

また、今年はALTの先生がボゼ役に抜擢されていました。伝統の中に、新しいものが受け入れられ、融合していくことに感動を覚えました。まさしく、ボゼ祭で受け継がれているものは、形だけではないと実感しました。